

9月1日防災の日～いざという時、あなたは動けますか！？～

毎年9月1日は防災の日で、防災の日を中心とした1週間が「防災週間」と

なっています。また、毎年1月17日を「防災とボランティアの日」、1月15日から1月21日までが「防災とボランティア週間」です。防災グッズの準備や点検を行い、家族で防災や防災グッズについて話し合いをするなどして、災害についての認識を高めましょう。

また、年に4回、防災用品点検の日があります。3月1日、6月1日、9月1日、12月1日が防災用品点検の日。普段なかなか確認する機会が少ない防災グッズ。使用期限、設置場所の確認、家族みんなで話し合っておきましょう！！



非常持ち出し品



「非常持ち出し品」とは、被害時に被災地に救援物資が届くまで、自足してしのぐために必要なもの（**食料品、飲料水、生理用品、医薬品、防犯グッズなど**）になります。救援物資が届くまでおおむね3日間と言われています。非常持ち出し品には、常に持ち歩く「常時持ち出し品」、災害時にさっと持ち出せる必要最低限の備えの「一時持ち出し品」、3日間程度被災地生活に備えた「二次持ち出し品」の3種類があります。

地震対策グッズ



あなたは突然の地震に備えて何か準備していますか？？地震が起きた時に家具や家電が倒れて怪我をしないようにする転倒防止グッズ、地震発生時に直前にお知らせしてくれるラジオ、瞬時に情報収集に役立つスマートフォンや補助バッテリーなど…いざという時の備えに万全を。

ちょっと気になるグッズ♪♪

手袋型のシャンプーシート！！

- ① 水いらず、拭くだけで簡単
- ② 洗い流しも、拭き取りも不要
- ③ 頭皮までしっかりと拭ける

ノンパラベン、ノンアルコールで安心。

メントール使用で爽快感があります。両面使って経済的



共に歩み続ける医療者の方々

コロナ感染者の治療に昼夜を問わず、激務をこなす医療者にはただただ頭が下がる思いです。

ところで、共に歩む医療者は、コロナに限ったことではありません。

2011年3月の東京電力福島原発事故後、多くの医療従事者たちが10年の歳月をかけて関わり続けています。

放射能汚染に怯えながら、汚染された故郷から避難をしいられた村民・町民が、故郷に戻るかどうかを迷いながら、頼るべく存在だったのが被爆医療に携わってきた医療従事者たちです。

コロナウイルスと同様に、放射能は「見えない恐怖」です。今の状態が「安全ですか？危険ですか？」この間に答えきれないもどかしさは、コロナ禍にも似ている面があります。

広島・長崎の医療従事者らの働き… 10年と半年

あの日から、福島の原発事故被害地域に入り調査や研究をはじめ、被害者の不安に寄り添った医療従事者は、広島や長崎の原爆投下で一度に大量の放射能を浴びた被爆者とは異なる福島の人々に、安心・安全を伝える難しさと向き合ってきました。

また、福島の場合は、故郷から避難させられた人々が、生活苦のために精神的に弱り果てたことによる死亡や病気もあり、精神的な支援も必要でした。

そのためには、信頼関係を結ぶことにも力を注がなければならなかった10年の歳月でした。

世界で唯一の被爆国である被爆地、広島・長崎の医療従事者も、原発事故での低線量被ばくの影響については正確な知識はありません。同様な核による被害でも、両者の違いに直面しながらも、福島の人々と共に歩み続けてきた10年と半年です。

コロナ感染に立ち向かう医療従事者も、新たな変異株・新ワクチンの効用など不明な部分を抱えながら、命と暮らしを守るために、日々奮闘されています。その姿と重なります。

広島、長崎への原爆



外部被ばく	放射線の影響は主に外部被ばく
被内ばく	・原爆から一瞬で放出された大量で高線量の放射線を直接浴びた 下痢・脱毛・皮下出血などの急性放射線障害、白血病やがんなどの晩発性障害
被内ばく	・原爆投下後に降った放射性物質を含む雨に打たれた
被内ばく	原爆投下後、空気中に浮かぶ放射性微粒子を吸い込んだ

(京都新聞 記事資料)



東京電力福島第1原発事故



(防衛省提供)

内部被ばく	放射線の影響は主に内部被ばく
被外ばく	原発から放出された放射性物質が体の表面に付いた
被外ばく	・原発から放出された放射性物質を含むほこりなどを吸い込んだ ・放射性物質を含んだ土や海・川からとれた野菜や魚を食べ、汚染された水を飲んだ 事故直後から国の基準値を上回る食品や水の出荷・摂取制限がなされたこともあり、被ばく線量は低いレベル